

石ガソラとミシャ(白粘土)

メーゴ(前川)は西から東に流れ、県道を過ぎ北側にカーブし海に続く。メーゴを境に宇宿集落と城間集落に分かれる。川は両集落の憩いの場であり、子供達は石ガンバラから飛び込み、ウナギやカニを獲る川遊びの場であり、女性はコーシャミシャ(白粘土)で髪を洗う。下流は洗濯などの生活用水として使用していた。



ヨーリガシキ

メーゴ（前川）では旧暦の6月、シキヨ
當日に水の神を祀る。この日に1歳未満の
供をメーゴに連れて行き、水で清めると
祈願と水難事故祓いになる。その後、新
数粒入れ、赤飯を炊いて配る。「川と海
する畏れがあり、このように祀る」と古老は
う。「アビラシハジメ」ともいう。



サンゴの切り石の石垣

シマ(集落)には平たい珊瑚を積み上げるサンゴの石垣は多いが、石灰岩を切り合わせる布積石垣は少ない。旧中場家の屋敷の石垣は中場常益氏が自宅を新築した際に、万屋・城間の農事組合員が積んだとのこと。この一帯は同様な切石垣の屋敷囲いが多く、城間の貴重な宝である。



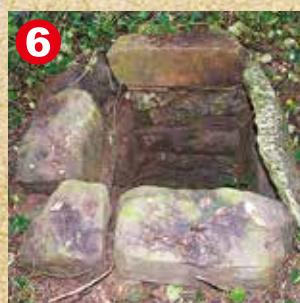
トフル墓群

シマでは小高い丘に横穴を掘った一族墓をトフル墓と呼んでいる。トフルとは天国の道の意味。
トフル墓群は、集落の西側外れに位置し



墓地内のトフル墓

トフル墓はそれぞれ一族の墓であり、共同墓地内の4号墓を始め数基は、今も毎月子孫によりお参りがされている。横穴の内部はフ拉斯コ状になっており、妊婦に例えて母の胎内に戻り、生まれ変わることを意味し、奥に遺体を安置するため段が作られているものもある。数百体の人骨が納められているものもあり、人骨は改葬され甕(かめ)に納められている。



サンゴの井戸

城間のシマは北側に子供が泳げるぐら
川と南側に小さな川が流れている。
畑などに散水する水は井戸水や川の水を
い、飲み水は湧水や限られた井戸のものを
用いていた。中でも方形にサンゴの積石で
た共同井戸はハマジョグチに行く途中にあ
集落の人が利用していたが、現在では使
われなくなり雑草に覆われている。



戰近

戦浜は元亀2(1571)年旧暦2月、琉球王国の尚元王が奄美へ3回目の賊徒討伐を行った時の上陸地点とされ、激しい戦闘の場となつたためその名がある。この一帯は外洋からの船が行き来していた。古老子は「昔、城間はきよらむん(美人)が多かつたが喜界島に行って帰つて来なかつた。」と話す。



リュウキュウアサギマダラの越冬地

戦浜は万屋から宇宿までの砂丘地のことを総称している。大きな砂丘のためあちこ海岸に出入りするハマジョグチがある。地帯はアダンやモクマオウが群生してお冬に気温が約10度前後になるとリュウキウサギマグラが集団で越冬する場所が数か所ある。